

たぐろ

TAKUSUI
No. 710

12
December 2015

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



虹の仲間で森づくり (三木市)

平成27年度兵庫県水産賞 受賞者決定

「豊かな海」について議論

～H27 瀬戸内海研究会議 瀬戸内海的环境保全・創造研究ワークショップ～

《今月の海上安全標語》～つなぎたい!～

CPR (胸骨圧迫) は繰り返し続けることが大事です。

救急車到着まで平均8分位といわれています。救急隊員に引き継ぐまで、命のリレーを頑張って!!

シーピーアール

CPR 頑張れ!つなぐれ! 命のリレー では、来年も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

発信力

水産技術センター 所長 近藤 敬三



私は今年の4月から水産技術センターの所長をさせて頂いております。もう半年以上が過ぎましたが、所長としては地域の連絡会議等に出席するようなことが多く、時間に余裕を持つことが出来ない毎日です。そのような会議は、教育や福祉、治安等を担当する機関の所長が出席する会議で、普段は考えることのない内容が私には目新しく、興味深く聞いています。

ある会議で水産技術センターについて話す機会があり、兵庫県の漁業が抱える課題について紹介しました。『瀬戸内海が貧栄養化している。』ことは勿論、『兵庫県は全国有数の水産県である。』ことに出席者全員が驚くとともに、矢継ぎ早に質問する程に新鮮な情報であったようです。漁業に関する情報不足については、ある程度は予想していましたが、やはり、漁業のことが余り知られていないことに残念な気持ちになり、改めて情報発信の重要性を痛感しました。

情報発信の重要性が叫ばれて久しいのですが、今では、瀬戸内海の貧栄養化に関する新聞報道が数多くされるようになりましたし、兵庫県漁連の『とれぴち運動』や全漁連の『プライドフィッシュ運動』の成果など、その効果が徐々に現れるようになりました。海の貧栄養化や消費者の魚離れというような私たちの努力だけでは解決できない課題については、さらに効果的な情報発信を続けることによって、漁業の重要性を理解してくれる人の輪を拡げていかなければなりません。

私自身も、漁業が海の恵みを提供する重要な産業であることや、漁業者が日々資源管理に取り組んでいること等々、漁業を紹介するための様々なことについて簡潔な言葉で語ることが出来るように準備することによって、発信する力を養っておこうと心を新たに致しました。

CONTENTS

No.710 December. 2015

- 2 ようこそ
- 3 兵庫県水産賞 受賞者決定
- 4 南あわじ市で「漁業者の森づくり」
虹の仲間です森づくり(グリーンピア三木)
- 5 「豊かな海」について議論
～平成27年度 瀬戸内海研究会議 瀬戸内海環境保全・
創造研究ワークショップ～
- 6 たつの市立室津小学校で郷土料理給食会
JF職員研修会
- 7 淡路市水産まつり 初開催
但州丸が帰港
- 8 兵庫県水産系統団体役員OB会総会
海難事故をなくそう
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「虹の仲間です森づくり」(三木市)

JF兵庫漁連と生活協同組合コープこうべによる「虹の仲間です森づくり」が今年も行われました。

「豊かな海」を取り戻すため、森の手入れをするということこの活動は今の事業名になってから9回目を数えます。

会場となった三木市のグリーンピア三木には、朝早くからJF・生協関係者など約180名が集まり、常緑樹の除伐作業などを行いました。

参加してくれた子どもたちも、木を切ったり、シダの蔓を引っ張ったりと作業を手伝ってくれました。

今年も、皆さんのお陰で、着実に日差しが差し込む森の範囲が広がりました。

県農林水産業の功労者表彰

“平成27年度 兵庫県水産賞” 受賞者決定



永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が11月30日（月）、県公館（神戸市中央区）で行われました。今年度の兵庫県水産賞はJF赤穂市水漏進さん（63）、JF南あわじ中尾博満さん（64）、JF但馬伊藤誠一郎さん（80）の3名の方が受賞されました。表彰式では井戸敏三知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。



受賞者の皆様（左から 水漏様ご夫妻、伊藤様ご夫妻、中尾様ご夫妻）

氏名	所属	功績内容
水漏進	JF赤穂市	アサリの出荷流通形態の改革と漁協経営の安定化への貢献
中尾博満	JF南あわじ	わかめ養殖の振興と漁協経営の安定化への貢献
伊藤誠一郎	JF但馬	ベニズワイガニの資源管理とブランド化の推進への貢献

（敬称略）

南あわじ市で「漁業者の森づくり」

「バベ」など600本を植樹

（一社）淡路水交会

行っています。

今年11月10日（火）、南あわじ市の本庄川ダム近くの約2,500平方メートルに、バベとヤマモモの苗木各300本を植樹しました。JF、行政、系統団体のほか、南あわじ市立阿万小学校4年生の児童ら約50人も併せた約140名が参加し、東根会長は挨拶で「この活動をおして森の大切さを知ってもらえたら」と、参加者にさらなる理解を求められました。

造園業者から植樹方法の説明を受けた後、約1時間かけて、一本一本丁寧に植えられました。また、児童らには県本農林水産振興事務所水産課 田中洋課長補佐から兵庫の魚や漁業、森と海の関係について説明があり、理解を深めることが出来たようです。



一般社団法人 淡路水交会（東根壽会長・JF淡路島岩屋）は、毎年この時期に「漁業者の森づくり」事業として、関係機関の後援と協力を得て、バベなどの植樹を行っています。アオリイカを増やすためバベ（ウバメガシ）の枝を使った柴漬けによる産卵床造成事業を進めつつ、必要なバベ等を育てる森づくりを、漁業者と一般県民が力をあわせて行い、環境保全と地域への貢献を図るもので、当会としては平成21年度から継続して



一本ずつ丁寧に植えられました



豊かな海を目指して多くの人が作業をしました

虹の仲間と森づくり

～11月28日（土）にグリーンピア三木で開催！～

JF兵庫漁連 指導部

今年で9回目となる「虹の仲間と森づくり」が11月28日（土）三木のグリーンピア三木で行われ、JFグループ関係者、コープこうべや行政関係者など約180名が集まり、森林の除伐活動に汗を流しました。この活動は、漁業者と消費者が共に手を携えて豊かな海を支える森を育ていくことを目的に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいます。

はじめにJF兵庫漁連 山口徹夫専務から「平成7年に植樹活動として始まり、平成18年からこの地での除伐活動を行っている。参加者は近年は200名を超えており、この取組みへのご理解に感謝します」とされました。このあと、NPO法人「ひょうご森の倶楽部」から除伐作業に関する注意事項の説明があり、準備運動を全員で行って山へ入りました。22班に分かれたヘルメット姿の参加者は、同倶楽部のメンバークから、除伐する木の種類や作業手順などの説明を受けてから作業を開始しました。森には大きく伸びたシダ類や、常緑樹がたくさんあり、参加者は周囲に気を配りながら次々と木を除伐し、時折、大きな木を切り倒した際の音が聞こえ



安全な木の切り倒し方の指導もありました

てきました。約2時間に及ぶ作業が終わったあと、森には太陽の光景が見られました。

交流会ではノドグロの干物やセコガニの味噌汁などが振る舞われ、昼食をとりながらの楽しい交流会となりました。※近年、漁業者の参加が減少傾向にあります。お忙しい時期かと思いますが皆様参加をお待ちしております。



「豊かな海」について議論

～平成27年度 瀬戸内海研究会議 瀬戸内海的环境保全・創造研究ワークショップ～

JF兵庫漁連 指導部

NPO法人瀬戸内海研究会議（柳哲雄理事長・九州大学名誉教授）が主催する「平成27年度瀬戸内海研究会議 瀬戸内海的环境保全・創造研究ワークショップ」が、11月30日（月）に神戸市で開催されました。

『豊かな海』の実現に向けて、栄養塩濃度の低下をはじめとする漁獲量減少の要因について、事実と確証がない現実を正しく理解し、今後どのような検討が必要かを考えることを目的としたこの会には関係者約100名が集まり、様々な議論がなされました。

冒頭、柳理事長より挨拶があった後、4つの講演が行われました。（下表参照）

初めの講演では、JF明石浦戎本 裕明組合長より、これまでの漁業の経験から、「栄養不足をはじめとする環境の変化によって漁獲量は減少し、併せて、漁業者も減少しており、私たちには時間がない。豊かな海に戻すために今すぐに行えることは窒素・リンを海に流すこと。しかし、柳理事長は、栄養塩を減らさないと水産資源は増えない」と公言されており、私達漁師には全く理解できない。」と漁業者の思いを強く訴えました。

続く、県立水産技術センター 反田 實参与は、兵庫県瀬戸内海

側の漁獲量が6万トン前後から4万トン前後へと減少に転じた1995年（平成7年）をターニングポイントとして捉え、様々な要因を検証すると、その漁獲量の減少は栄養塩の減少が最も大きな要因と指摘されました。

そして、広島大学 山本 民次教授は「このまま陸域から栄養塩の負荷削減を続けては、生物生産に甚大な影響を及ぼす。しかし、海に流入する負荷量をコントロールすることはできるが、海域での栄養塩の物質循環は多様であるため、水質は人の手では管理できない。海を「畑」として捉え、海底耕耘や施肥等を行うことが重要。」とされました。最後に、広島大学 松田 治名誉教授は「単に過去の時代に戻るのではなく、多面的な海の恵みを最大化することを目標に湾灘協議会による取組みを行うことが必要。」とそれぞれ講演を締めくくられました。

講演終了後、総合討論が行われ、柳理事長は「播磨灘は窒素・リンの負荷量を増やす価値はある」とされましたが、出席者からは環境基準を達成している大阪湾も栄養塩を増やす必要があるとの意見がある等、栄養塩の負荷量や底質等の環境に対する見解が大きく分かれ、意見が活発に交わられました。



活発な意見交換がありました



戎本組合長の講演

講演テーマ	講師
瀬戸内海が豊かになるために	JF明石浦 代表理事組合長 戎本 裕明
漁業生産の推移から見た今後の対策の方向性	兵庫県立水産技術センター 参与 反田 實
きれいな海から豊かな海へ	広島大学大学院生物圏科学研究科教授 山本 民次
瀬戸内海的环境と制度の現況からみた今後の方向性	広島大学名誉教授 松田 治

たつの市立室津小学校で

郷土料理給食会

播磨地区漁協女性部連合会

室津で水揚げされる新鮮な魚や野菜だけを使った「郷土料理給食会」が11月17日(火)、たつの市立室津小学校で開催されました。この給食会はJF室津やJF室津女性部(高木友子部長)、地域が町ぐるみで取り組み、今年度で12回目になります。

この日は朝から、室津小学校の児童たちが各学年に分かれ干物づくり、屋外でのかまどを使ったごはん作り、舌平目の三枚おろしに挑戦しました。舌平目の調理では、女性

部員の指導のもと、児童たちは包丁の使い方から学び、三枚おろしにした魚を油で揚げて骨せんべいや唐揚げにしました。手際良く調理され、お昼前には同校の体育館に舌平目の他にイ

力のリング揚げ、たこコロッケ、れんこんのきんぴらのほか、室津の浜で揚がった天草を使った寒天ゼリーに綾部山梅林で知られる梅を味付けに使ったものなど、すべて、室津産食材が使われ、保護者、学校関係者、地域の皆さん、JF職員、幼稚園児たちが集まり、食事を楽しみました。また、給食会では児童が食について学んだことをスライドで紹介したあと、同女性部と有志により、海の底を舞台にした魚の学校についての寸劇が行われました。



恒例の寸劇の幕が上がりました



アカシタが美味しそうに揚がっています

JF職員研修会 開催

JF兵庫漁連 指導部 (一財)兵庫県水産振興基金

11月20日(金)、「平成27年JF職員研修会」が午前には姫路市灘市民センターで摂播地区・但馬地区職員を対象に、午後は洲本市の淡路水産センターで淡路地区の職員を対象に行われ、両会場あわせて約70名が受講しました。

県水産課、JF兵庫漁連、(一財)兵庫県水産振興基金が主催したこの研修会は、簿記・会計の知識向上により、適正な会計処理とJFの健全な経営管理体制の構築を目指すもので、講師は税理士法人森田事務所森田茂伸所長と、県水産課漁政班 望月松寿班長が講師を務めました。「適正な会計実務について」と題した森田所長は、冒頭、「会計に適正・不適正はない。適正に実務がなされて当然」とし、「現金・帳簿の管理や心構えなど会計実務の基本の再確認を行ったうえで、不正が発生するのは、それを行うことが出来る組織の体制にも問題がある」と注意喚起をされ、参加者は真剣な眼差しで聞き入っていました。望月班長は「漁業協同組合の職員との役割とは」をテ



望月班長の講義 (摂播・但馬地区)



森田所長の講義 (淡路地区)

マに、県・JF兵庫漁連が漁協業務の実情を調査した「一斉点検」の結果を踏まえて、漁協の目的や職員の役割などを話され、健全な漁協経営のあり方について意識啓発を行いました。

淡路市水産まつり 初開催



淡路市漁業振興協議会

淡路市内のJF等で構成される淡路市漁業振興協議会（社領 弘会長・JF一宮町）は、この度初めてとなる「淡路市水産まつり」を、11月7日（土）に生穂漁港荷捌所で開催しました。イベントは、社領会長の「本日の水産まつりは魚離れを少しでも止めたいとの想いから開催した。これを機に食卓で魚料理が一回でも多く出たら幸い」との挨拶で幕が上がり、会場は約3,000名の来場者で賑わいました。



新鮮な海の幸が販売されました

タイなどの魚介類が格安で販売されたほか、チリメンや焼アナゴなど、約20の販売ブースが並び、長蛇の列ができていました。また、「八毛汁」と「シラス丼」が約200食無料で振る舞われ、1時間程でなくなる盛況でした。

今後淡路市各地で毎年開催する予定で、水産物消費の拡大に期待しています。

但州丸が帰港

兵庫県立香住高等学校の航海実習

（二財）兵庫県水産振興基金

兵庫県立香住高等学校 海洋科学科オーシャンコース第2学年の生徒14名を乗せた実習船「但州丸」は、マグロ延縄漁など所定の実習を終えて、11月27日（金）には、船籍のある神戸港で帰港式が行われました。風が強く、肌寒く天候でしたが、学校・水産業界関係者や生徒の保護者など約40名の参加がありました。

来賓として出席した系統団体を代表して、JF兵庫信漁連 山田峰人会長が「高校の先輩として頼もしく思う。水産業を取り巻く環境は大変厳しいが、是非とも水産業界へ進んでいただき、将来を背負う人材になっていただきたい。」と

挨拶し、実習生全員に記念品が贈られました。また実習生代表は「実習を通して、自然の厳しさ、マグロを獲ることの難しさ、東北の復興の大変さを実感した。これらの学んだことを今後生かしていきたい」と力強い抱負を述べました。

今年10月27日（火）香住港を出港し、沖繩の宮古港・那覇港に寄港し、小笠原諸島近海や沖ノ島島付近で操業しました。その後、宮城県の気仙沼港に入港し、地元の高校生と交流を図り、神奈川県三崎港を経て神戸港に帰港しました。

但州丸は神戸港を出港後、12月2日に香住港に入港し全航程約7,500キロ、約40日間の実習を終えます。



山田信漁連会長から記念品が手渡されました



今年7月に竣工した6代目「但州丸」



平成27年度 兵庫県水産系統団体役員OB会総会

去る11月21日（土）シーサイドホテル舞子ピラ神戸に於いて、平成27年度兵庫県水産系統団体役員OB会総会が30名出席のもと開催されました。

開会にあたり、一年間に亡くなられた会員に対して出席者一同黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。

その後、田尻幹事長より、今年初めての参加者も何人かお見受けしますが、来年の総会に向けて一人でも多く参加いただきたい皆様からのさらなるお声掛けをお願いします。本日は年に一度の懇談の場です。大いに旧交を温めてもらいたい旨、挨拶されました。続いて、来賓のJF兵庫漁連山田会長より、OBの方々が多くの人達と築いてこられた信頼関係は兵庫の水産の財産です。今後も漁業者のために貢献できる系統づくりをめざしていきたいと思っておりますので、ご指導とご支援をお願いしたい旨、祝辞を述べられました。

田尻幹事長が議事進行を行ない、議案の収支決算報告及び収支計画は原案どおり承認されました。また、幹事の改選については、現幹事全員が留任し、田尻幹事長、岡本副幹事長、富永会計担当幹事、宮本幹事、山里幹事、榎並幹事の計6名が引き続き幹事を務めることに決定しました。

総会に引き続いて、兵庫県水産振興基金戸田専務の乾杯音頭により懇親会が始まり、終始和やかな雰囲気の中、時間の経過も忘れて歓談がすすみました。

最後に岡本副幹事長から「元気で、また来年会いましょう」と力強い閉会の挨拶を述べた後、一本締めにより懇親会は終了いたしました。



海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着用しよう!

着用時の生存率は80%を超えます。
なお、着用の際は体にあったサイズを選ぶか、金具等を調整して使用しましょう。



固定式ライフジャケット
モデル：兵庫県漁業
共済組合
山田 純さん

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください



浮力は十分あり!

モデル：JF浜坂
中村 吉志さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

近畿最大級の直売所 「にじいろふぁ～みん」が オープン

JA兵庫南

近畿で最大級の農産物直売所となるJA兵庫南の6次産業化拠点施設「にじいろふぁ～みん」が11月19日(木) グランドオープンしました。所在地は加古郡稲美町六分一。第二神明道路の明石西インターチェンジから北東約1.7km、天満大池の埋め立て地にあります。約1万㎡の敷地に平屋の農産物直売所(売場面積966㎡)。約500人の生産者が出荷し、地元の畜産農家や漁協から仕入れる精肉・鮮魚コーナーや豆腐工房、地酒・特産品コーナー、ジェラートや惣菜などの工房を構えます。

ドライフーズ工房や料理教室などを開くキッチンスタジオが入る研修棟(床面積726㎡)もあり、子どもや若者、男性など幅広い世代を対象とした企画を予定しています。直売所南側の隣接地約1万2千㎡には、農業体験ができる貸農園や研修農地を来年4月に開設する予定です。

青木良子所長は「にじいろの名前の通り、色とりどりの農産物が並び、たくさんの笑顔が集うお店を目指します。地元農産物の魅力をより広いエリアの皆様を知っていただきたいです」と話しました。



オープンセレモニーでのくす玉割り

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

平和をテーマに 兵庫県生協大会を開催

10月8日(木)、兵庫県民会館において、2015年度 兵庫県生協大会を開催。会員生協の組合員、役職員など280名がつどいました。「生協強化月間」の10月は、全国の生協で「活動や事業について知っていただき、生協の輪を広げるための催し」が行われました。

まず、第一部の記念式典は主催者を代表して兵庫県生協連 本田英一 会長理事が挨拶。引き続き、ご来賓の兵庫県、神戸市、兵庫県議会より、生協への期待をこめられたご祝辞をいただきました。続いておこなわれた表彰式では、永年生協の発展に寄与された5人の会員生協役員に生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」、生協業務に精励した28名の役職員に「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られ、会場の参加者は大きな拍手で祝いました。第二部は、今春ニューヨークで開催された国連NPT(核兵器不拡散条約)再検討会議に合せて参加した尼崎医療生協の職員がニューヨーク行動を報告。続いて、「世界は平和になっている～被爆70年に考える～」と題して、前広島市長 秋葉 忠利 氏が講演。これまでの歴史の中で、世界が核兵器廃絶の方向にゆっくりと歩みをすすめていること、唯一の戦争被爆国として核なき世界の実現への思いについて、ご講演いただきました。また、会員医療生協による「健康チェック」や「(公財)兵庫県健康財団」による健康づくりと疾病予防の取り組み、「兵庫県フェニックス共済」「兵庫労働共済生活協同組合」の共済の紹介のほか、ロビーでは、国連NPT・ニューヨーク行動に参加した会員生協のパネル展示も行われ、多くの参加者でにぎわいました。



◀生協功労者表彰「兵庫県知事感謝」が贈られました

▶国連NPT・ニューヨーク行動パネル展示コーナー



<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

整理 整頓

◆整理整頓が生活習慣となつておれば、生活環境はかなりスッキリした空間になる筈である。不精な者には気になる熟語だが、私の『四字熟語辞典』に「整理整頓」の記載が、何故か割愛されている。これほど役に立つ言葉はあるまいが、大方の人は完璧には守ってはいまい。書籍好きの弊として、金さえあれば本を買って仕舞うため置き場に困り、風呂場を別に移して旧風呂場を書斎風に改造した。周囲の壁をすべて本棚としたから、文庫本の殆どが整頓できた。背文字を見て直ぐに取り出せ、我ながら良策だと思っている。出して読んだ後は、必ず元へ戻さないと、次に探す時に難儀し、不精を大いに反省する事になる。

◆職場に船舶部門があった頃、船長室に入るのが楽しみだった。狭く限られた室内空間を実に旨く細工してあり、およそ無駄な所が無い。此れは整理整頓のモデルだなど思ったものである。加西市の山近くで菜園を始めたため、備中鍬やバケツなどを車のトランクに積んだままで、薬剤や化学肥料の類は車庫の棚に並べている。大工道具や車用の小物と並んで、菜園用具が幅を利かせ、従来の道具類を押し退けて棚を占拠している。トランクの道具を全て出すと、車庫に車が入らなくなるから驚いて仕舞う。不要品の整理整頓は実に難しい。

◆少し離れた町に住んでいる孫が、保育園に通い始めた頃、会う度に語彙が増えていて驚かされた。遊び道具を自分で片付ける事も覚えたようで、散らかし放題だったのに、反故は直ぐゴミ捨て箱へ運んで行くし、読んだ絵本もキッチンと棚に戻すようになった。非常に良い習慣で褒める材料になったが、我が書斎は孫に見せられないナと思つた物である。必要品は椅子に座したまま手に取れる状態で、全てを手近に並べている。筆記用具、櫛や常備薬、包装用の小物、古い書類や通帳の類いが、体を捻るだけで手に取れる。使つた資料を片付けずに後回しにするため、机上は山積みになっていて、雑然たる有様なのである。

◆天井裏に物置き場を拵えて、不用品の整頓場所とした。初夏に電気行火と扇風機が場所を交替する。使わない食器や調理器具も実に多いが、古い漫画本や書籍類もあり、新聞の切り抜きや新聞小説を貼つて作った自家製の本も、随分と溜まった。何時か読む積もりで買った本も、3年置いて読まなかったら恐らく今後も活用しないと思われ、天井裏へ仲間入りだ。先頃、県立図書館が寄贈本を募つていたので、自転車で詰めるだけを持ち込んで喜ばれた。身辺整理・整理整頓は直ぐ出来そうだが、中々出来ない。実行第一。片付ける事である。

大輪田塾だより



講義を行う近藤所長(写真上)と田中本部長(写真下)

度 大輪田塾修了式ならびに入塾式に操業の都合から欠席された8期生 桂源直さん(JF坊勢)の修了証書授与式がJF坊勢組合長室で執り行われ、当塾 戸田 氏談事務局長から修了証書と記念品が手渡されました。



桂さんの修了証書授与式

また、11月2日行われた「平成27年度大輪田塾修了式ならびに入塾式」に操業の都合から欠席された8期生 桂源直さん(JF坊勢)の修了証書授与式がJF坊勢組合長室で執り行われ、当塾 戸田 氏談事務局長から修了証書と記念品が手渡されました。

「兵庫県の水産業の概要」と「JF兵庫漁連の事業概要」

11期生をはじめて迎えた11月講座は「兵庫県の水産業の概要」と「JF兵庫漁連の事業概要」の2講義が行われました。

「兵庫県の水産業の概要」は県立水産技術センター 近藤 敬三所長から、本県の水産業の特性から現在の施策まで幅広い内容で行われました。また、「JF兵庫漁連の事業概要」ではJF兵庫漁連 田中 稔彦組織統括本部長から県漁連の事業概要や主な取り組みについて講義が行われました。